

2025年10月10日(金)11:00～12:00

研究データエコシステム構築事業シンポジウム

—AIとデータ基盤がつなぐ、多様な知の最前線—

中核機関群 活動・計画報告 人材育成チーム

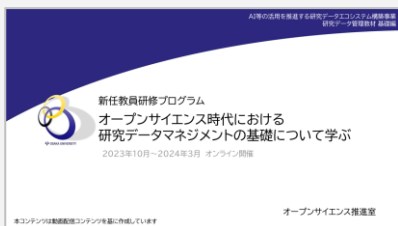
大阪大学

尾上孝雄、下條真司、甲斐尚人(報告者)

RDM人材育成の取り組みの全体像

- ◆ 学習教材(マイクロコンテンツ教材)の開発
- ◆ 学習教材の展開

研究データ管理教材(基礎編・共通実践編)



- ◆ アンケート・視聴・学習ログデータの集約
- ◆ ログの可視化・学習分析
- ◆ 学習教材の改善



Learning Record Store



研究データ管理教材の開発および展開

人材育成環境の水平展開

第一段階

第四段階

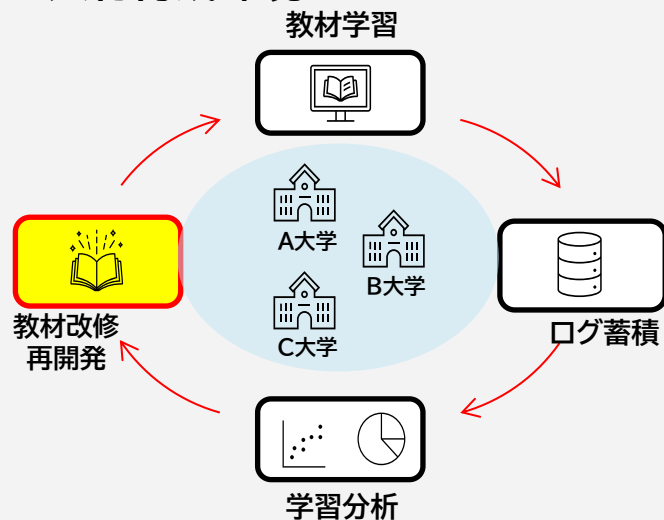
第二段階

第三段階

LA基盤のプロトタイプ構築

職種別・分野別学習教材の提供

◆ 人材育成環境



- ・ 開発コンテンツをベースに、各研究機関、コミュニティ用にアレンジして、学認LMS(機関限定コース)で構成員に提供可能に。

⇒ 一連のサイクル(教材展開、LA分析、教材再開発)を学認LMSを活用して他大学でも可能に。

◆ 職種別にスキルを習得可能なマイクロコンテンツの提供



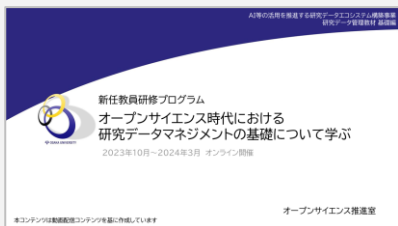
◆ 実践編教材の提供



RDM人材育成の取り組みの全体像(第一、二段階)

- ◆ 学習教材(マイクロコンテンツ教材)の開発
- ◆ 学習教材の展開

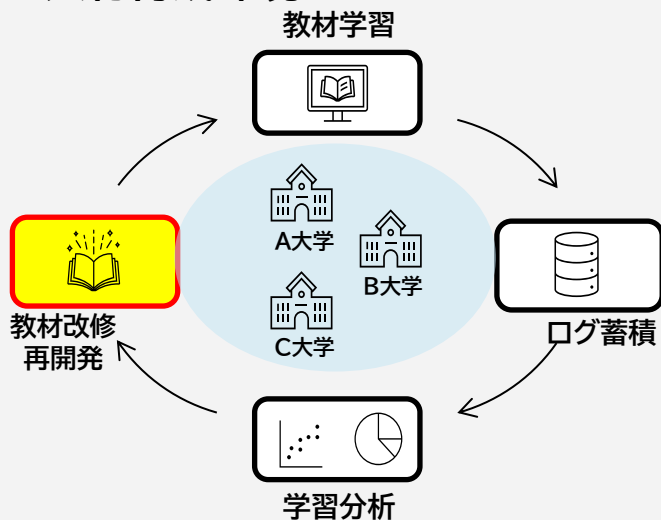
研究データ管理教材(基礎編・共通実践編)



研究データ管理教材の開発および展開

人材育成環境の水平展開

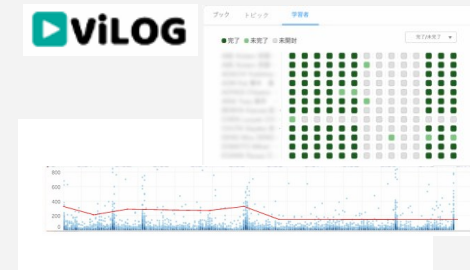
◆ 人材育成環境



- ・ 開発コンテンツをベースに、各研究機関、コミュニティ用にアレンジして、学認LMS(機関限定コース)で構成員に提供可能に。

⇒ 一連のサイクル(教材展開、LA分析、教材再開発)を学認LMSを活用して他大学でも可能に。

- ◆ アンケート・視聴・学習ログデータの集約
- ◆ ログの可視化・学習分析
- ◆ 学習教材の改善



第一段階

第二段階

LA基盤のプロトタイプ構築

第四段階

第三段階

職種別・分野別学習教材の提供

◆ 職種別にスキルを習得可能なマイクロコンテンツの提供



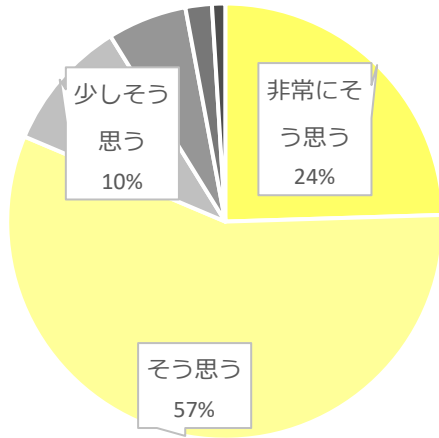
◆ 実践編教材の提供



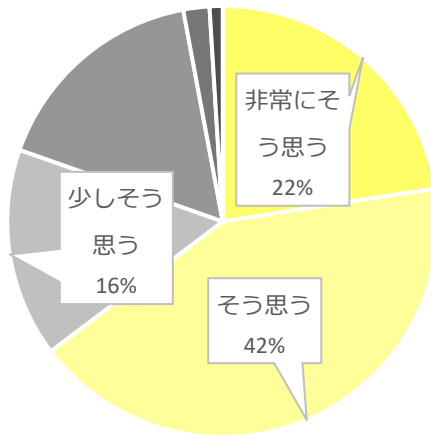
RDM基礎編教材 アンケート分析結果(2023.10~2025.9)

全体を通した評価(新任教員研修2023年度:30名、2024年度50名、2025年度:23名、計103名)

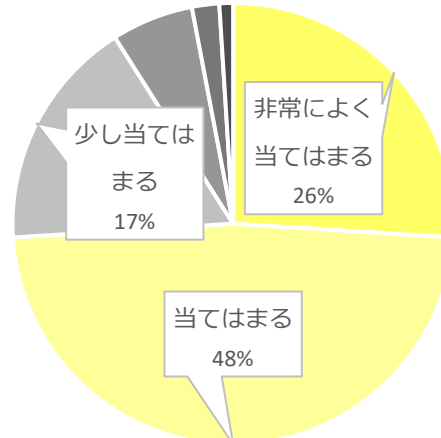
研修の難易度は適切か。



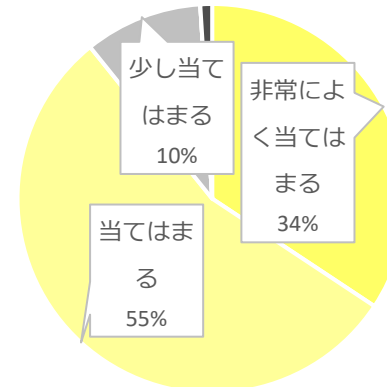
研修内容の分量は適切か。



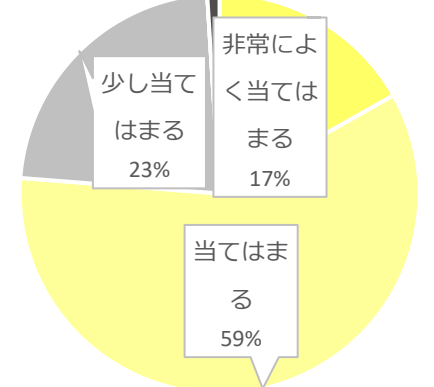
スライド内容と解説はわかりやすかったか。



研究データマネジメントに関する理解が深まったか。



RDMを実施するときに、その方法を理解することができたか。



提供年度ごとの評価推移

- 難 易 度 : 3年間を通して90%前後が肯定的。
- 分 量 : 毎年「多い」と「少ない」の両方の評価が見られる。経験層差が反映されている可能性。
- わかりやすさ : 3年間を通して90%前後が肯定的。
- 理 解 度 : 否定的回答が大幅に減少。

否定的回答(少し当てはまるを含む)は 2023年0% → 2024年18% → 2025年 8%

- 方 法 理 解 : 「非常に」割合の限定的伸び:20%(2023) → 18%(2024) → 9%(2025)

→ 伸び代が残存。具体例の追加が望まれる。

JPCOARとの協働(読上げテキスト改善)による効果が考えられる

九州大学との協働(解説内容の補強)による効果の可能性が考えられる

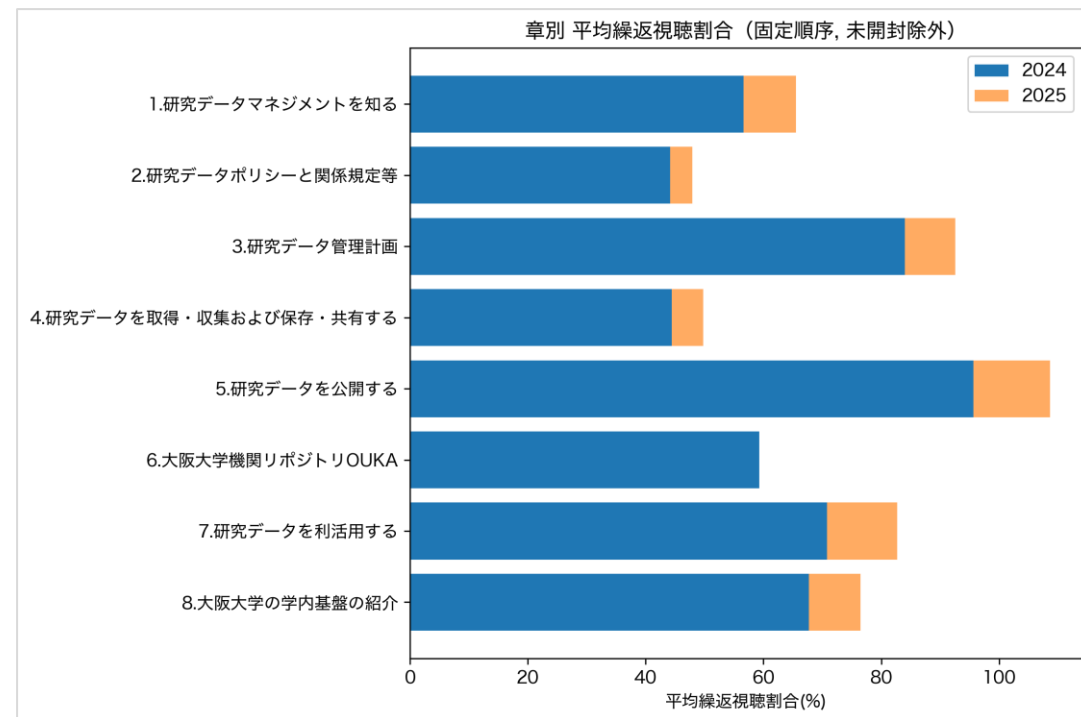
RDM基礎編

アンケート・視聴ログ分析(2023.10～2025.9)

アンケート分析

Q. どの講義が特に役立つ(あるいは役立ちそう)か 選択してください。	2023	2024	2025	計
1.研究データマネジメントを知る	6	10	8	24
2.研究データポリシーと関係規定等	4	7	1	12
3.研究データ管理計画	9	13	6	28
4.研究データを取得・収集および保存・共有する	7	19	8	34
5.研究データを公開する	10	13	3	26
6.大阪大学機関リポジトリOUKA	9	13	—	22
7.研究データを利活用する	9	11	5	25
8.大阪大学の学内基盤の紹介	11	12	8	23

視聴ログ分析(簡易的)



- 2024年度:繰返視聴は全体で65%
 - 2025年度:繰返視聴は全体でほぼ9%前後
→ 音声・説明の改善による影響の可能性。
- 一方で、それでも繰り返し視聴が残る講義・トピックは、アンケート結果と概ね一致する傾向に。

アンケート結果を受けて改修した教材で セミナーを実施

文部科学省「世界で活躍できる研究者育成プログラム総合支援事業」研究者のための+αシリーズVol.35（2025年7月17日）
『Research Data Management for the Open Science Era ～いま考えるべき研究データマネジメントのかたち～』

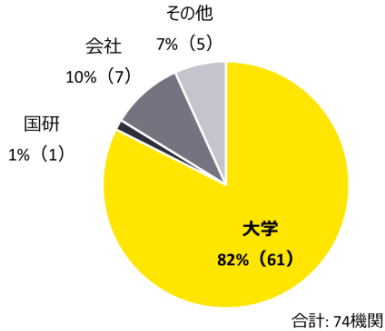
改修(特に「3.研究データ管理計画」「5.研究データを公開する」)を実施したことで受講者から高い評価
⇒ 学認LMS上の教材も更新予定(2025年度末)

+αシリーズvol.35のアンケート結果

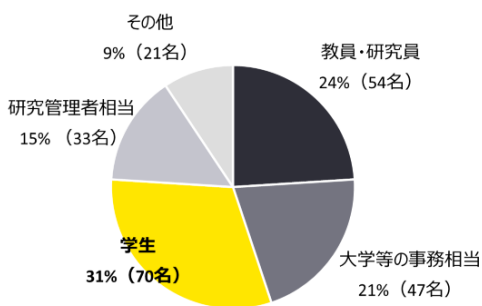
7/17(木)に甲斐先生にご講演いただいた+αシリーズvol.35は、当日156名に参加いただきました。

申込者数 225名 → 当日参加者数 156名

申込者の所属機関



申込者の職位



+αシリーズvol.35のアンケート結果

74の所属機関から225名にお申込みいただき、当日は156名に参加いただきました。
ウェビナー内容についても「満足」以上の評価が93%を占め、大好評を得ました

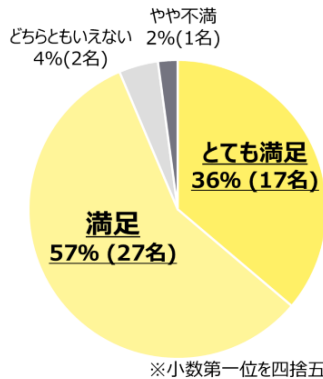
申込者数 225名

申込機関数 74

ライブ参加者数 156名

アンケート回答者数 47名

ウェビナーに対する評価



自由記述でいただいたご意見（抜粋）

Q. 満足である理由
現場で生じる具体例を活用しながらのQ&Aがいくつも示されており、非常に身近で当事者意識を感じさせられる講演でした。
知らなかった情報を知ることができた。具体例をあげて頂いて良かった。質疑応答の時間が十分にあって良かった。
研究データ管理を行うための流れや留意すべきポイントについて、詳しくご説明いただき、大変良かったです。
分かりやすい資料と説明で、研究データについて、また、そのマネジメントについて知ることが出来たためです。本学はリボジトリの運営もこれからという、かなり出遅れた状態ですが、今後は何を意識していくべきかが分かりました。
The introduction is easier for me to understand.
データマネジメントのコンセプト、世界の動向、役に立ちそうなリンクなどを知ることができた。
講演者の話が大変具体的に明確だったため、業務のヒントをたくさん得ることができた。
公開データベースについて検討中のため、大変勉強になりました。
良くまとまった講義で大変ありがたかったが、結果として現場の問題が解決するわけではないため、とても満足したとは答えづらい。講義やウェビナー自体の問題ではなく、トピック自体が現在進行系の課題で将来が見えない（理想像がステークホルダーの中でも共有できていない）のが問題ではないかと思っています。
Q. 不満である理由/運営や進行に関する気づき・改善点
The English translation was fine, but it would have been better for me if the seminar was in English.
資料が手元にあれば、メモなど書き込めて助かります。
演者の先生のウェブカメラの設定をクロマキーにして、背景も無くすと、スライドが見やすいと感じました。
Q. 今後+αシリーズで取り上げてほしいテーマ
オープンサイエンス・オープンアクセスの国内外の動向・対応策（選択式、32票）
「AI等を活用する研究データエコシステム構築事業（人材育成）」の取組成果（選択式、23票）
各分野別のRDM人材育成（選択式、17票）
国際連携（選択式、14票）
どうやって「人の上に立つ人」になる練習をすれば良いか（自由記述）
国際共同研究におけるデータの越境移転について（自由記述）

アンケート結果を受けて改修した教材で セミナーを実施

文部科学省「世界で活躍できる研究者育成プログラム総合支援事業」研究者のための+αシリーズVol.35（2025年7月17日）
『Research Data Management for the Open Science Era ～いま考えるべき研究データマネジメントのかたち～』

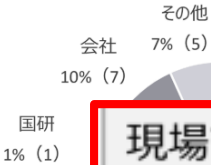
改修(特に「3.研究データ管理計画」「5.研究データを公開する」)を実施したことで受講者から高い評価
⇒ 学認LMS上の教材も更新予定(2025年度末)

+αシリーズvol.35のアンケート結果

7/17(木)に甲斐先生にご講演いただいた+αシリーズvol.35は、当日156名に参加いただきました。

申込者数 225名 → 当日参加者数 156名

申込者の所属機関



申込者の職位



現場で生じる具体例を活用しながらのQ&Aがいくつも示されており、非常に身近で当事者意識を感じさせられる講演でした。
知らなかった情報を知ることができた。具体例をあげて頂いて良かった。質疑応答の時間が十分にあって良かった。

合計: 74機関

+αシリーズvol.35のアンケート結果

74の所属機関から225名にお申込みいただき、当日は156名に参加いただきました。
ウェビナー内容についても「満足」以上の評価が93%を占め、大好評を得ました

申込者数 225名

申込機関数 74

ライブ参加者数 156名

アンケート回答者数 47名

自由記述でいただいたご意見（抜粋）

Q. 満足である理由

現場で生じる具体例を活用しながらのQ&Aがいくつも示されており、非常に身近で当事者意識を感じさせられる講演でした。
知らなかった情報を知ることができた。具体例をあげて頂いて良かった。質疑応答の時間が十分にあって良かった。
研究データ管理を行うための流れや留意すべきポイントについて、詳しくご説明いただき、大変良くわかりました。
分かりやすい資料と説明で、研究データについて、また、そのマネジメントについて知ることが出来たためです。本学はリポトリの運営もこれからという、かなり出遅れた状態ですが、今後は何を意識していくべきかが分かりました。
The introduction is easier for me to understand.

満足したとは答えづらい。
がステークホルダーの中で

Q. 不満である理由/運営や進行に関する気づき・改善点

The English translation was fine, but it would have been better for me if the seminar was in English.
資料が手元にあれば、メモなど書き込めて助かります。
演者の先生のウェブカメラの設定をクロマキーにして、背景も無くすと、スライドが見やすいと感じました。

Q. 今後+αシリーズで取り上げてほしいテーマ

オープンサイエンス・オープンアクセスの国内外の動向・対応策（選択式、32票）
「AI等を活用する研究データエコシステム構築事業（人材育成）」の取組成果（選択式、23票）
各分野別のRDM人材育成（選択式、17票）
国際連携（選択式、14票）
どうやって「人の上に立つ人」になる練習をすれば良いか（自由記述）
国際共同研究におけるデータの越境移転について（自由記述）

とても満足
36% (17名)

満足
57% (27名)

※小数第一位を四捨五入

アンケート結果を受けて改修した教材で セミナーを実施

追加したスライド例(国内の最新動向、DMPに関するQA、メタデータ管理の実例)

「学術論文等の即時 オープンアクセスの実現に向けた基本方針」 への対応方法

対象となる競争的研究費(現時点)

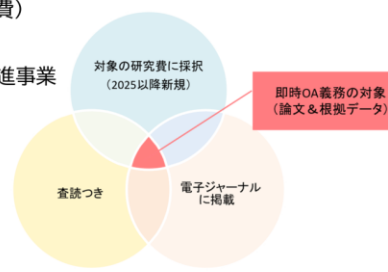
- 日本学術振興会(JSPS)／科学研究費助成事業(科研費)
- 科学技術振興機構(JST)／戦略的創造研究推進事業
- 日本医療研究開発機構(AMED)／戦略的創造研究推進事業
- 科学技術振興機構(JST)／創発的研究支援事業

即時オープンアクセスが義務付けられる研究成果

- 査読付き電子ジャーナルに掲載された学術論文
(著者最終稿を含む)
- 論文の根拠データ

対応方法

原則として所属機関の機関リポジトリで公開(グリーンOA)



適用時期

2025
※202

Q. 最低限押さえるべき項目は何か

DMP作成必須の研究助成金ではないし、忙しい。。

最低限押さえるべき要素は何か。DMPがのちのち一番役に立つ教育現場を想い、研究チームに学生が複数入っていて、修士課程の学生の研究成果であるデータを持っていて、〇〇…

「データ散逸を防ぐ」という観点で言えば、最低限押さえるべき項目が見えてくる

項目	記録
① 研究データの種類と保存先	CSVデータ、画像データをONIONに保存
② データ公開・共有の計画	論文発表後6か月以内にZenodoで公開
③ データ管理の責任者	阪大太郎(大阪大学)

データ保管の責任者はだれか…

Q. DMPの内容を途中で変更する

変更内容は研究チーム内で共有し、適切に記録(更新例)

- 研究の進捗に応じてデータの保存場所を変更
- 新たなデータ収集手法の導入したとき
- 保存場所が突然利用不可になった場合のデータの保存・共有ポリシーを変更したとき
- 管理者や関係者の連絡先情報の更新が必要

ステップ	
① 変更内容を明確にする	「データの保存場所」など、変更
② 変更履歴を記録する	更新日と変更点(存在を更新)
③ 今後の更新計画を策定する	四半期ごとにDMPを見直し、研究メンバーと合意形成

「研究データ管理計画(DMP)とは 研究計画とデータマネジメント(学習編)」, 大阪大学オープンサイエンス推進室研究データ管理・オープンアクセス支援, <https://osoa-portal.osaka-u.ac.jp/data-management/dmp-what/>

Q. データ公開をしたくない場合、どのような選択肢があるか?

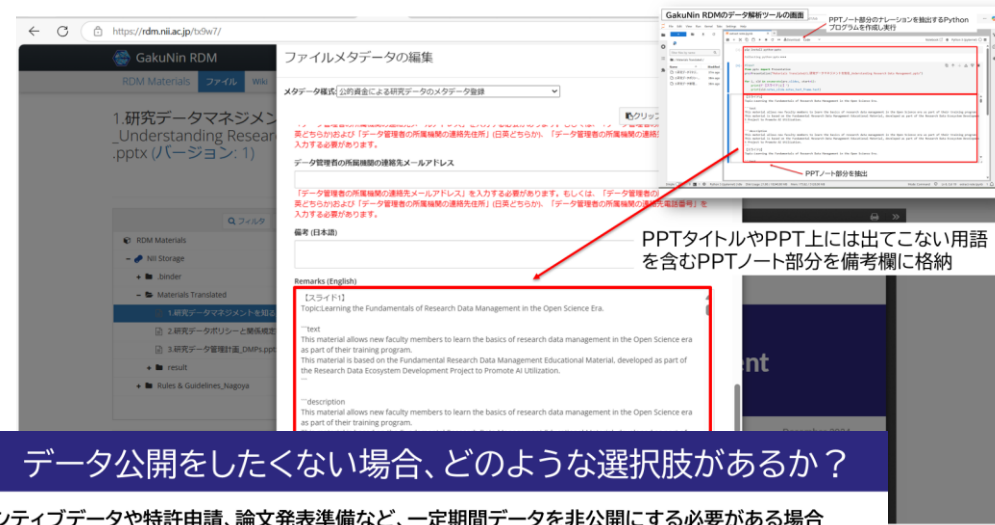
センシティブデータや特許申請、論文発表準備など、一定期間データを非公開にする必要がある場合、以下の3つの方法を検討する

方法	詳細
① エンバゴ期間を設定	「論文発表後12か月間非公開(特許申請中)」など、一定期間データを公開せずに保留する。
② 限定公開(アクセス制限)	「共同研究者のみにデータ共有」「機関リポジトリで学内限定公開」など、アクセス制限を設定する。
③ メタデータのみ公開	データ本体は非公開とし、データの概要(メタデータ)だけを公開することで研究の透明性を確保する。

AMED 研究データ利活用に係るガイドライン2.1 版
「AMEDからの支援(委託又は補助)を受けた研究開発の成果として生み出されるデータには、患者の個人情報が含まれることがあり、関係法令、倫理指針等に基づく個人情報の保護やプライバシーの保護を含めた、適切なデータのシェアリングを実施しなければならない。」
「各大学・研究機関・企業等による研究開発のインセンティブや国益を保護」という観点からは、一部の研究開発データについては少なくとも一定期間はデータシェアリングを行わないことを認めることも、オープン・アンド・クローズ戦略の観点から重要である。」
【例外猶予期間】～省略

科学研究費助成事業データマネジメントプラン(DMP) 【作成上の注意】

「5. 「機微情報がある場合の取り扱い方針」欄には、データの保存や共有に関する同意、匿名化処理、センシティブデータの扱い等を記入すること。」



PPTタイトルやPPT上には出てこない用語を含むPPTノート部分を備考欄に格納

今後の取り組み(基礎編)

➤ 職種別最適化(パーソナライズ学習)

学習前の事前テスト結果から弱点部分を特定し、受講者個別に教材トピックを提示

午後:研究データエコシステム事例紹介
「職種別に最適化した教材学習カリキュラム
による図書館職員向けの人材育成の実践」
(大阪大・神崎)

➤ 様々なプラットフォームを通じた展開

各研究機関の環境に合わせて導入できるように教材を提供

(2025年10月2日時点)

運用機関	公開プラットフォーム	受講者数・アクセス件数
NII	学認LMS	計415名(69機関)
JPCOAR	JPCOARリポジトリ	計2,897件(2024.12.9～)
大阪大学	CLE(大阪大学e-learning) ※新任教員研修(選択科目)	計103名 内訳 23名(2025年度) 50名(2024年度) 30名(2023年度)
	機関リポジトリOUKA	計1,332件 内訳 809件(2023.10.1～) 523件(2024.12.9～ ※改修版)

今後の取り組み(基礎編)

➤ 受講の動機づけの強化

- 学認LMSでオープンバッジ付与
※学認LMSで65機関・382名が受講中・受講済み(9/17時点)
- ルール・ガイドライン整備チームとの連携



人材育成（阪大）

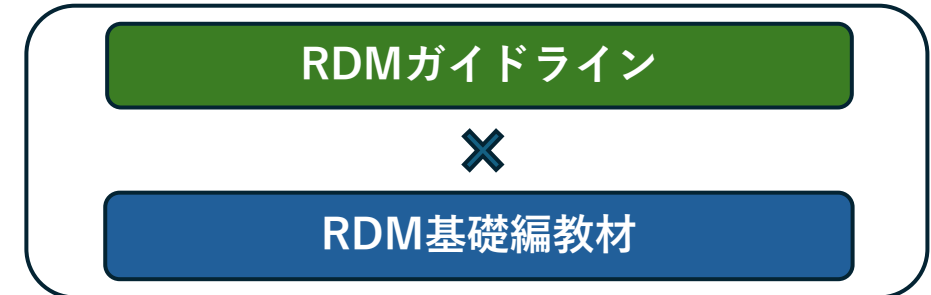
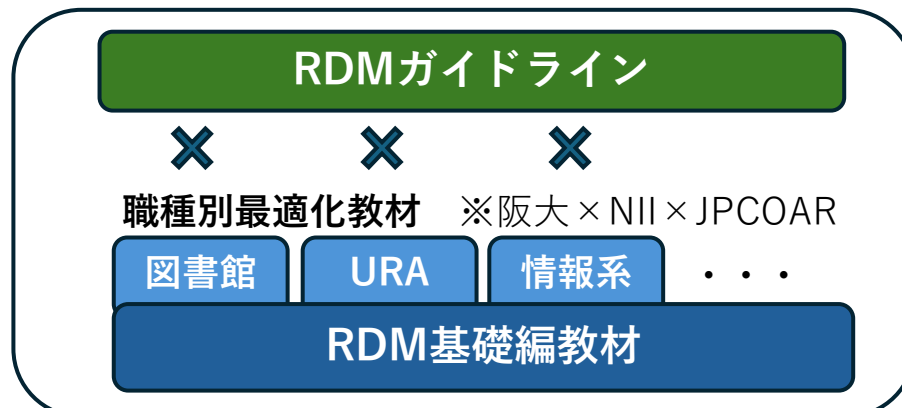
RDM基礎編教材

ルール・ガイドライン整備（名大）

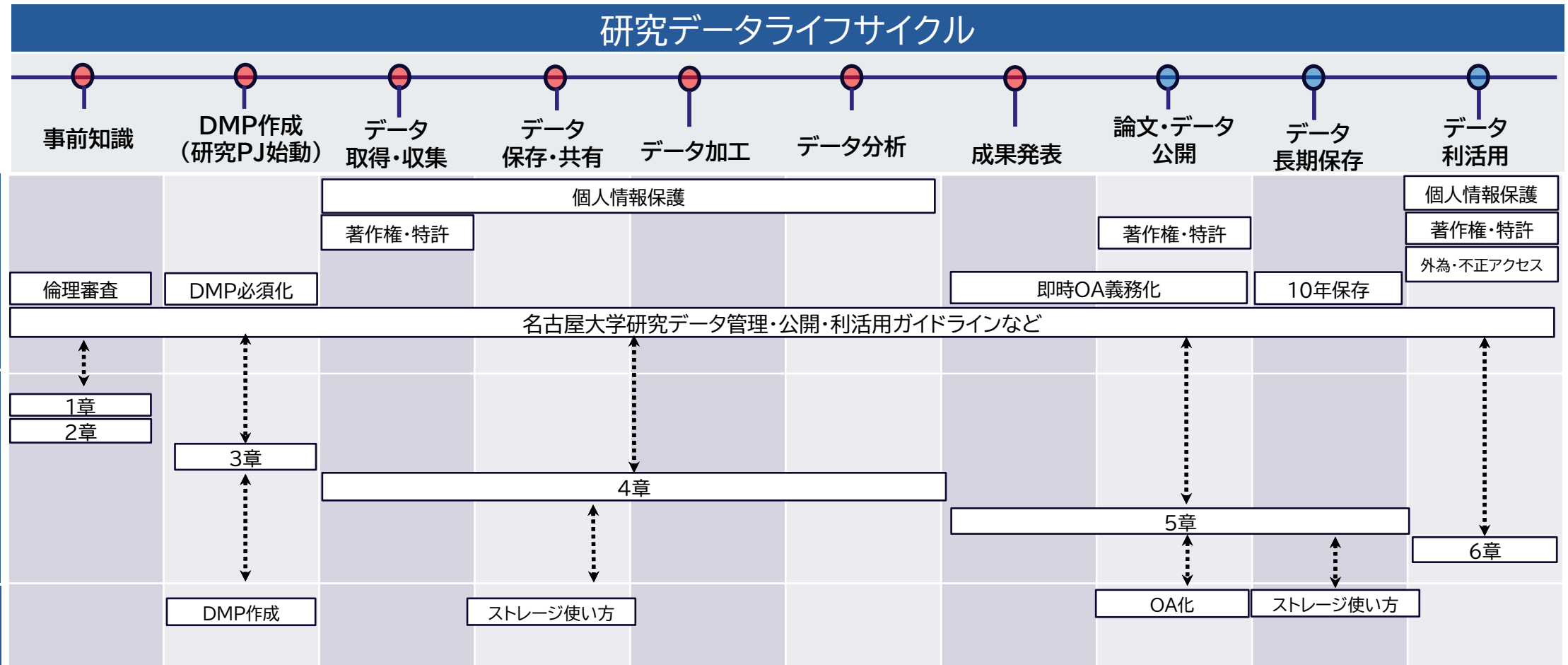
RDMガイドライン

職種別最適化教材とガイドラインの紐付け
各職種の支援人材が、教材で学習する際に、
どの法令・ガイドライン項目が根拠となって
いるか確認できる

ガイドラインと基礎編教材の紐付け
ガイドラインに紐づいた教材で学習することができる



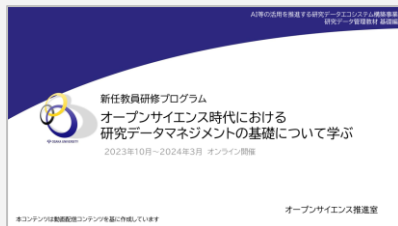
ルール・ガイドライン整備チームとの連携



RDM人材育成の取り組みの全体像(第三段階)

- ◆ 学習教材(マイクロコンテンツ教材)の開発
- ◆ 学習教材の展開

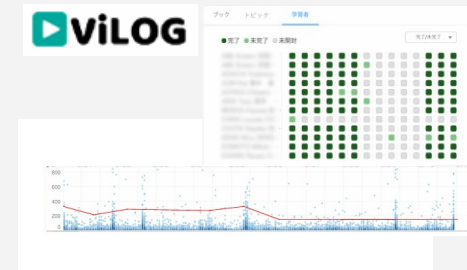
研究データ管理教材(基礎編・共通実践編)



- ◆ アンケート・視聴・学習ログデータの集約
- ◆ ログの可視化・学習分析
- ◆ 学習教材の改善



Learning Record Store



研究データ管理教材の開発および展開

人材育成環境の水平展開

第一段階

第四段階

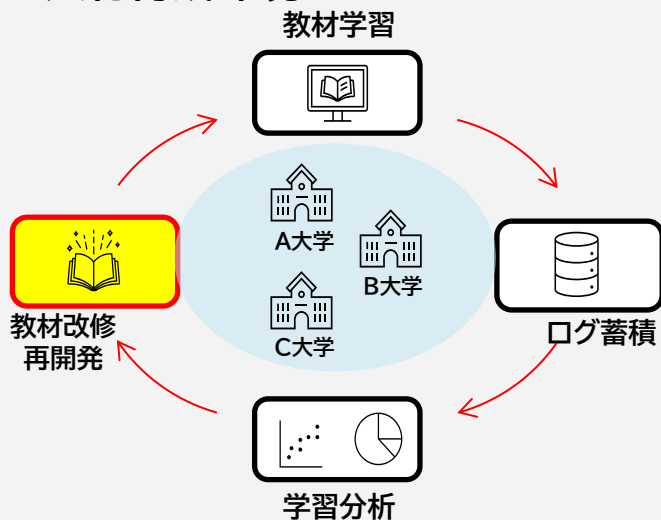
第二段階

第三段階

LA基盤のプロトタイプ構築

職種別・分野別学習教材の提供

◆ 人材育成環境



- ・ 開発コンテンツをベースに、各研究機関、コミュニティ用にアレンジして、学認LMS(機関限定コース)で構成員に提供可能に。

⇒ 一連のサイクル(教材展開、LA分析、教材再開発)を学認LMSを活用して他大学でも可能に。

◆ 職種別にスキルを習得可能なマイクロコンテンツの提供



午後:研究データエコシステム事例紹介
「職種別に最適化した教材学習カリキュラムによる図書館職員向けの人材育成の実践」(大阪大・神崎)

◆ 実践編教材の提供



実践編教材の提供(整備戦略)

データタイプ	代表的 対象分野	教材内容	<div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div></div> <div>背景DMP取得・収集保存・共有加工・分析公開・利活用</div>						教材展開			展開実績	応用が期待 される分野
									学内	学外	ワーク ショップ		
実験データ (画像・テキスト)	測定科学 (化学) 開発済み	測定データの取 得・保存・共有			◎	◎			公開中	公開中	—		理工系 医歯薬・生命系
テキストデータ	質的社会科学 (フィールドワーク) 開発済み	参与観察(エスノグ ラフィ)によるデー タの取得・収集お よび保存・共有	基礎編・共通実践編(DMP・OA)		◎	○			今年度 公開予定	今年度 公開予定	来年度 開催予定	・リポジトリアクセ ス数(156件) ※学会報告資料	社会科学 (社会学・法学・心 理学・教育学)
	デジタル・ヒュー マニティーズ (特別コレクション) 開発済み	TEI技術によるテ キストのアノテー ション・分析					◎		公開中	公開中	来年度 実施に 向けて 計画中	・リポジトリアクセ ス数(251件) ・CLE受講者数 (34名)	人文学 (歴史・哲学・言語・ 文学・言語学)
画像データ	デジタル・ヒュー マニティーズ (特別コレクション) 開発済み	IIIF規格による高 精細画像化および 公開・利活用			○	◎		◎	公開中	公開中		・リポジトリアクセ ス数(1,124件) ・CLE受講者(94 名)	人文学 (歴史・哲学)
WEBデータ	デジタル人類学 今年度開発	スクレイピング技 術等による画像・ テキストの取得・収 集および加工分析			◎		◎		来年度 公開予定	来年度 公開予定		—	社会科学 (社会学・心理学・ 教育学)
統計データ・ 位置データ (ビッグデータ)	量的社会科学 (統計学) 準備中				◎		◎		—	—	—	—	社会科学 (経済学・地理学)

機関リポジトリOUKA アクセス数 301件

データタイプ	代表的対象分野	教材内容
実験データ (画像・テキスト)	測定科学 (化学) 開発済み	測定データの取得・保存・共有
テキストデータ	質的社会科学 (フィールドワーク) 開発済み デジタル・ヒューマニティーズ (特別コレクション) 開発済み	参与観察(エスノグラフィ)によるデータの取得・収集および保存・共有 TEI技術によるテキストのアノテーション・分析
画像データ	デジタル・ヒューマニティーズ (特別コレクション) 開発済み	IIIF規格による高精度画像化および公開・利活用
WEBデータ	デジタル人類学 今年度開発	スクレイピング技術等による画像・テキストの取得・収集および加工分析
統計データ・位置データ (ビッグデータ)	量的社会科学 (統計学) 準備中	

実験系研究データ管理の実践

小規模分析室測定データ集約・配信システムを用いた
測定データの管理 ～データ取得から共有・公開～

大阪大学 コアファシリティ機構
オープンサイエンス推進室

小規模分析室測定データ集約・配信システムについて

<背景>

- 分析機器制御PCの一部にはサポート対象期間外のものがある (Win7・XP etc.)

インターネット接続は基本的に禁止

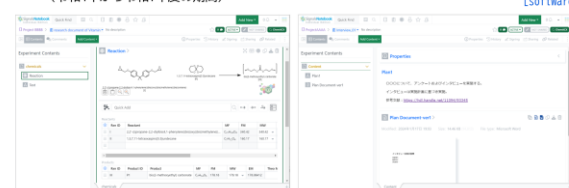
測定データの移送はUSBメモリなど
デバイスが必要

- ・手間がかかる
- ・紛失リスク
- ・ウイルス感染リスク

展開

データを記録・管理する：電子実験ノートの利用

- Signals Notebook Individual版の利用案内
- ・ 本学教職員はアカウント登録のみで無料で利用可能 (令和4年から令和7年度の期間)

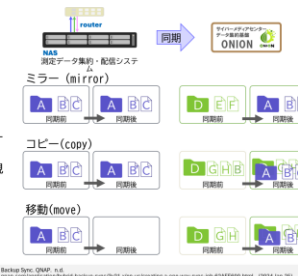


利用詳細は利用講習会動画で！ <https://el.hanna-nw.org/osaka-u/27/menu>

NASの設定 ONIONとの同期設定

■ 同期アクション

- ・ ミラー
NASのデータをONIONにコピーする
→ 同期後の双方のフォルダの内容物は同一
ONIONに保存されていたデータは削除される
- ・ コピー
NASの新規および更新データをONIONにコピーする
→ ONIONに保存されていたデータに追加で新規および更新データがコピーされる
- ・ 移動
NASのデータをONIONに移動する
→ NASに保存されていたデータは削除され、データはONIONでのみ保存される



データを記録・管理する：電子実験ノートの利用

■ 紙媒体と電子媒体のそれぞれの特徴（一例）

	紙媒体	電子媒体
メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・ いつでもどこでも使用できる (電源/ネットワーク不要) ・ 利用に他の媒体が必要 ・ データ付加が容易 (糊付けなどができる) ・ 経年劣化が緩やか (消失リスクが低い) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検索機能がある ・ 証跡機能がある ・ リンク (電子的紐づけ) 機能がある ・ 複製利用が容易 ・ 保管場所が不要/省スペース
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検索・リンク機能がない ・ 証跡機能がない ・ 複製利用が難しい ・ 保管に場所 (スペース) が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電源 (およびネットワーク) が必要 ・ 利用にデバイスが必要 ・ 記録媒体の劣化がある (消失リスクが高い) ・ (セキュリティ) コストが高め

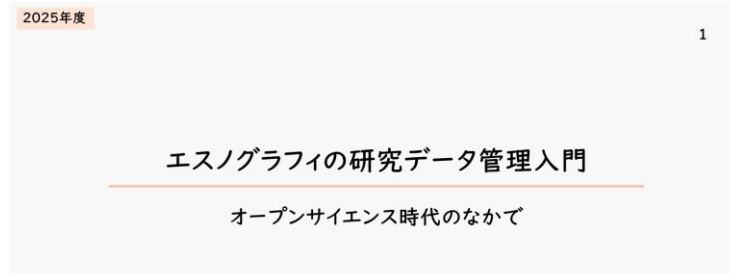
➤ 学内展開

「小規模分析室測定データ集約配信システム」を導入済みの計8部局に教材を展開
(基礎工、工、歯、薬、超高压電顕センター、レーザー研、理、コア工作)

➤ 学外展開

ユースケースで本学と同仕様のシステムを導入した阪奈機器共用ネットワーク(大阪公立大学、奈良工業高等専門学校)に展開

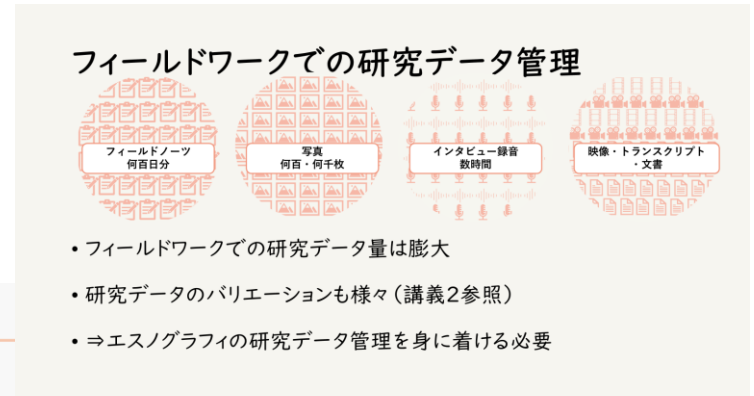
データタイプ	代表的対象分野	教材内容
実験データ (画像・テキスト)	測定科学 (化学) 開発済み	測定データの取得・保存・共有
テキストデータ	質的社会科学 (フィールドワーク) 開発済み	参与観察(エスノグラフィ)によるデータの取得・収集および保存・共有
	デジタル・ヒューマニティーズ (特別コレクション) 開発済み	TEI技術によるテキストのアノテーション・分析
画像データ	デジタル・ヒューマニティーズ (特別コレクション) 開発済み	IIIF規格による高精細画像化および公開・利活用
WEBデータ	デジタル人類学 今年度開発	スクレイピング技術等による画像・テキストの取得・収集および加工分析
統計データ・位置データ (ビッグデータ)	量的社会科学 (統計学) 準備中	



本教材は「AI等の活用を推進する研究データエコシステム構築事業」における研究データ管

コースの構成

- ・講義1 … エスノグラフィの研究ライフサイクルと研究データ管理計画
- ・講義2 … エスノグラフィの研究データの特質と研究倫理、研究データ管理計画
- ・講義3 … エスノグラフィのフィールドワークを実施する
- ・講義4 … エスノグラフィを作成する: データの分析、整理、共有
- ・講義5 … 本学における「オープン・エスノグラフィ」の試み



既存のオープンラボでワークショップを計画予定※エスノグラフィラボの取組みはこちらから
<https://ethnography.hus.osaka-u.ac.jp/>

- 大阪大学人間科学研究科を中心に社会科学分野の質的な研究手法「エスノグラフィ」におけるデータ管理教材を開発
- 人々に関する独特なデータに対応した取得、収集、保存、共有を開発する必要がある。2024年度に開発着手、2025年度の学内公開を目指す。

データタイプ	代表的対象分野	教材内容
実験データ (画像・テキスト)	測定科学 (化学) 開発済み	測定データの取得・保存・共有
テキストデータ	質的社会科学 (フィールドワーク) 開発済み	参与観察(エスノグラフィ)によるデータの取得・収集および保存・共有
	デジタル・ヒューマニティーズ (特別コレクション) 開発済み	TEI技術によるテキストのアノテーション・分析
画像データ	デジタル・ヒューマニティーズ (特別コレクション) 開発済み	IIIF規格による高精細画像化および公開・利活用
WEBデータ	デジタル人類学 今年度開発	スクレイピング技術等による画像・テキストの取得・収集および加工分析
統計データ・位置データ (ビッグデータ)	量的社会科学 (統計学) 準備中	

➤ IIIF編

画像および動画の相互運用を推進する国際的な枠組みであるIIIF(研究用途に耐えうる高精細な画像)着目

機関リポジトリOUKA アクセス数 1,124件
CLE 受講者数 94名

AI等の活用を推進する研究データエコシステム構築事業
研究データ管理教材 実践編

グローバル日本学教育研究拠点「拠点形成プロジェクト」
ー人文科学分野向け研究データ管理を促進するデジタル・ヒューマニティーズ学習教材開発ー

人文学研究者必見！研究データ管理の始め方
--- OUKAで始める ---

データ公開の可否を決める

1. 公開制約条件の解除を試みる
 - ・個人情報を含むデータを匿名化
 - ・データについて権利者の許諾
 - ・猶予期間を設けて公開を延期
2. 公開できる場合：公開先を決める
 - ・ストレージあるいはリポジトリが必要
 - ・データの形式やサイズ、保存期間、アクセス制御、メタデータ(書誌項目)の記述などの要件に合致するかどうかを確認すること

➤ TEI編

テキストデータの構造化と分析に有効なTEI(テキスト構造理解・比較・定量分析を促進)に着目

機関リポジトリOUKA アクセス数 251件
CLE 受講者数 34名

AI等の活用を推進する研究データエコシステム構築事業
研究データ管理教材 実践編







グローバル日本学教育研究拠点「拠点形成プロジェクト」
ー人文科学分野向け研究データ管理を促進するデジタル・ヒューマニティーズ学習教材開発ー

人文学研究者必見！
テキストデータとTEI

ガイドラインの使用方法(1)

「TEIガイドライン」とブラウザで検索すると、右の画面のような「The TEI Guidelines」(Current Guidelines)というページが見つかります

今後の取り組み(実践編)

データタイプ	代表的 対象分野	教材内容	     						教材展開			展開実績	応用が期待 される分野
			背景	DMP	取得 ・収集	保存 ・共有	加工 ・分析	公開 ・利活用	学内	学外	ワーク ショップ		
実験データ (画像・テキスト)	測定科学 (化学) 開発済み	測定データの取 得・保存・共有	基礎編・共通実践編(DMP・OA)		◎	◎			公開中	公開中	—		理工系 医歯薬・生命系
テキストデータ	質的社会科学 (フィールドワーク) 開発済み	参与観察(エスノグ ラフィ)によるデー タの取得・収集お よび保存・共有			◎	○			今年度 公開予定	今年度 公開予定	来年度 開催予定	・リポジトリアクセ ス数(156件) ※学会報告資料	社会科学 (社会学・法学・心 理学・教育学)
	デジタル・ヒュー マニティーズ (特別コレクション) 開発済み	TEI技術によるテ キストのアノテー ション・分析					◎		公開中	公開中	来年度 実施に 向けて 計画中	・リポジトリアクセ ス数(251件) ・CLE受講者数 (34名)	人文学 (歴史・哲学・言語・ 文学・言語学)
画像データ	デジタル・ヒュー マニティーズ (特別コレクション) 開発済み	IIIF規格による高 精細画像化および 公開・利活用			○	◎		◎	公開中	公開中		・リポジトリアクセ ス数(1,124件) ・CLE受講者(94 名)	人文学 (歴史・哲学)
WEBデータ	デジタル人類学 今年度開発	スクレイピング技 術等による画像・ テキストの取得・収 集および加工分析			◎		◎		来年度 公開予定	来年度 公開予定	—		社会科学 (社会学・心理学・ 教育学)
統計データ・ 位置データ (ビッグデータ)	量的社会科学 (統計学) 準備中				◎		◎		—	—	—		社会科学 (経済学・地理学)

最後に

- 学認LMS上の基礎編教材受講のお願い
- 実践編教材受講機関の募集

ご清聴ありがとうございました